

伊勢湾貧酸素情報（第 2 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

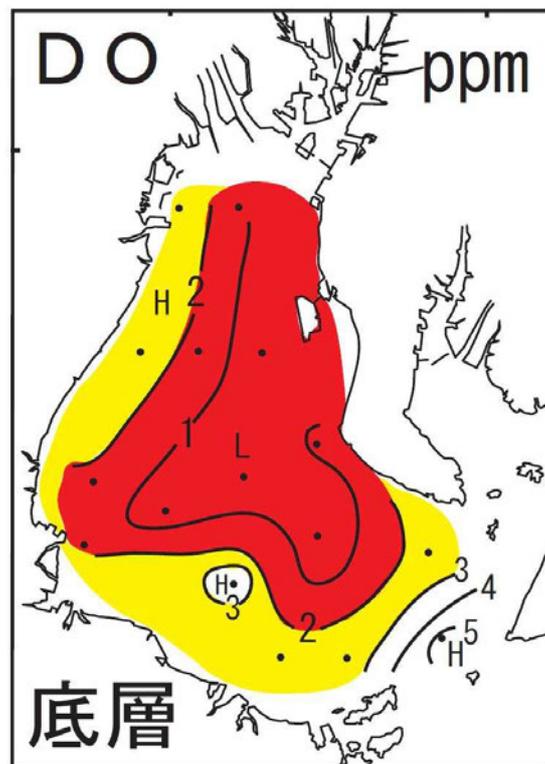
伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾口部を除く全域の広い範囲で 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

8 月 4 日の調査結果

8 月 4 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 23.3～29.7℃，10m で 22.0～24.3℃，底層で 18.2～24.4℃の範囲にあり，表層ではやや高めから高め，10m では平年並み，底層では平年並からやや低めとなっていた。塩分は表層で 17.13～31.73，10m で 30.65～32.96，底層で 29.91～33.99 の範囲にあり，表層では平年並みから高め，10m では平年並みからやや高め，底層では平年並からやや高めとなっていた。

DO（溶存酸素量）は表層で 5.4～8.8ppm，10m で 2.9～6.4ppm，底層で 0.1～5.2ppm の範囲にあり，表層では平年並みからやや低め，10m では平年並みからやや高め，底層では湾口部を除く伊勢湾全域で 2ppm 以下の貧酸素水塊が形成されていて、湾中央部では 0.1ppm 以下であった。

表層で高温傾向，底層では低温・高塩分傾向にあるため，上下混合が起こりにくく，底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ，今後，貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布